

栗野盛光 教授

専門：ミクロ経済学 マーケットデザイン

(インタビュアー： 染野 哲哉)



Q. 先生のご専門を教えてください。

A. 僕の専門としている分野は、ミクロ経済学の中のマーケットデザインと呼ばれる分野です。マーケットデザインとは、経済理論を実際の社会に対して実践し、社会問題を解決しようとする学問です。これは児童と保育園とのマッチ、受験生と高校や大学への入学マッチ、臓器移植制度、ネットで検索したときに羅列される広告のオークション、ネットオークション、証券取引に应用されていて、自動運転技術による新しい社会での制度設計に向けて研究が進んでいます。僕が実際に設計したものとして、筑波大学の進学選択（いわゆる進振り）があります。今は、公的サービスのオンライン利用予約について研究しています。例えば、ドイツのビザを取得する際には面会が必要で、面会予約は先着順で行われていますが、その結果、業者が偽アカウントを大量に作り、すべて予約してしまい、ブラックマーケットで転売するということが横行しています。これは典型的な制度設計の失敗で、世界各国で先着順によるオンライン予約で問題になっています。では、どうすれば解決できるのか。先着順のスピード競争を軽減するため、ある期間に希望者を募り、抽選をするという制度を考えました。理論的に転売が生じないことを証明し、被験者を集めて実験してうまくいくことを確かめました。経済学は机上の空論だと言われがちですが、このようにただ理論を考えるだけでなく、実験を通じて、実装できるかを考えることが大事なことです。

Q. なぜマーケットデザインをご専門とされているのですか？

A. もともと僕は工学部出身で、修士号も土木工学で取りました。その後経済学に転向し、

阪大院に進み途中で退学し、ミネソタ大学に進みました。それまでは、数学ばかり使う経済理論をやっていたのですが、肌に合わずピッツバーグ大学に移りました。そこで出会ったのが、のちに僕の指導教員となり、共著者ともなる Utku Unver です。今でこそ、マーケットデザインの分野で、なくてはならない存在の彼ですが、当時は駆け出しの助教でした。彼の授業を受けて、マーケットデザインの工学的なアプローチ（問題点を発見し修正しようとするようなアプローチ）を知り、僕の工学的なバックグラウンドとマッチしました。また元々理論だけではなく、社会に応用できるような研究がしたかったので、マーケットデザインを専門としました。あの時、彼と出会っていなかったら、今頃いったい自分はどうなっていたかと思います。人生は出会いだなあとつくづく実感します。

Q.先生の学生時代を教えてください

A. これは当時の京都大学の風土だと思うのですが、ほとんど大学に行ってま
せんでした(笑)。大学には週に1回、語学を受けに行くぐらいで、あとの日は朝起きると、当時やってたスピードスケートの練習して、夕方になるとバイトに行っていました。バイトは厨房で皿洗いや、祇園のラウンジでボーイをしていました。4年生になると研究室配属があったのですが、そこで指導教員である小林潔司先生の授業を受けて衝撃を受けました。というのも、小林先生は工学部なのに経済学の授業をしていたのです。そこで経済学って物理に似て面白いなと思い、もっと勉強したくなり大学院に進学しました。

Q.先生の教育理念を教えてください

A. ゼミでは自分で考える機会を作るということを念頭に運営しています。考えることが大事だとはよく言われることですが、実際それが何かというのは難しいです。僕も学生の頃はよくわかっていませんでしたが、研究者になって何となくわかってきた気がします。それは学んだことを通じて社会を見てみる。それをきっかけとして、

社会の仕組みを考えてみることだと思います。だから、ゼミ生には、様々な社会問題について、きちんと経済学を使って具体的な議論ができるようになってほしいと思っています。

Q.最後に2年生にメッセージをお願いします。

A. 上でも言いましたが、ぜひ**考えることのできる人**になってほしいです。日本では、チャレンジをする人に対して、否定的な意見を言う人が多いです。それはいいんですが、そのような意見を言うときは自分だったらどのように改善できるのかという案を出せる人になってほしいですね。

【編集後記】

今回は社会情勢を鑑みて、オンラインインタビューということでしたので、まずは滞りなくインタビューをすることができて良かったです。私は栗野盛光ゼミに所属していますので、このように先生とじっくり話す機会を設けていただいたのは、大変良い経験になりました。栗野さんは(ゼミではさん付けで呼ぶように言われている)、素晴らしい研究実績をお持ちであるにもかかわらず、おだやかでとても良い方です。今回のインタビューでも、質問には何でも答えてくれたのですが、ほとんどオフレコになってしまったのが残念です(笑)。インタビュー後には、私の今後について親身に相談にのっていただきました。栗野さん、本当にありがとうございました。栗野ゼミは、のんびりとしているにもかかわらず、とても優秀なゼミ生が多くて、楽しい上に勉強になるゼミです。2年生の皆さんはぜひ応募してください(ステマ)。

2020年5月29日

染野 哲哉